

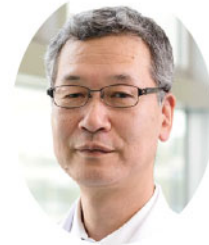
2022年
10月
No.218

県病ニュース秋号

【理念】奉仕・信頼・進歩

当院は敷地内全面禁煙です。

今だからこそ「安全、安心」を



院長 藤 昌 司
院 とう しょう し
さ 佐 藤 昌 司

大分県内でも新型コロナウイルス感染症の第7波が押し寄せています。もはや、どこからどこまでが「波」なのか分からぬ増減を繰り返す猛威の中で、それでも県民の皆さんや病院スタッフの踏ん張りに感謝しながら業務にあたっています。心苦しくも外来・入院患者の皆様への面会等を含めた諸種の制限をかけ、一方で職員には不要不急の催しを控えるよう厳命しながらの毎日を本当に忸怩たる思いで過ごしています。抜けないトンネルはない、と自らや周囲を励ましながらの毎日でもこれほど長く続くとすれば、ただ「うんざり」の一言に尽きますが、それでもトンネルの出口までもう少し辛抱しましょう。

さて、今年も全国ではゲリラ豪雨や線状降水帯のニュースが飛び交い、過去最速の梅雨明けと思いきや、その後の各地の豪雨被害は皆さんご存知の通りです。大分県立病院は大分川に隣接し、河岸段丘の底面平地に立地しています。このため、かねてより大分川の氾濫に対する対策が急務でした。病院周囲への防水壁、防水板の設置など、ハード面での可能な対策は講じてきましたが、県のハザードマップに示された最大浸水度に完全に耐え得る設備とはいえ、とりわけ浸水時の電源確保の点で課題がありました。近年の集中豪雨は台風襲来などの一時的な出来事ではなく、梅雨時や秋雨前線によって毎年危惧される事象であり、地震災害よりももっと確率的に起こり得る災害です。また、昨今の医療は医療機器については言うに及ばず、電子カルテ、Web配信、メール連絡、病院間の情報連携などなど、IT無しでは機能しない環境であり、

電力供給の滞りは医療機能そのものをダウンさせることになり
ます。

この背景から、当院では本院西側に非常用自家発電設備、変電設備、医療ガス設備、貯水(受水)槽を備えた別棟の建設にとりかかり、今年の5月に建設工事に着手いたしました。令和5年6月の完成を企図しており、これにより想定最大浸水時における電源確保、水源確保および医療ガス等の供給と維持が可能になります。ただ、建設にあたっては当院敷地内の駐車場近辺が工事区域となるため、進入路が狭小となるほか、工事用車両の出入りなど、受診の皆様にご迷惑をおかけする期間が生じてしまいます。本院にとって大変重要な工事であることをご理解いただき、ご不便をご容赦いただきますようお願い申し上げます。

ライブラインの確保、新型コロナウイルス感染症への対処、ゲノム医療の進展、緊急時の地域連携のあり方

など、世の中がせわしく変化している今、医療の安全・安心を確保するための課題がさまざまな方向から病院に突きつけられています。改めて、月並みな言葉ですが、しかし公的病院としての基本的な立ち位置として、「患者さんの安全と安心」を忘れることなく職員一同、努力しています。引き続き、当院へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



【設備棟 造設計画】 左：現在、右：造設後

小児科 皆様にも少しでも貢献を



小児科部長
はら たくや
原 卓也

皆様こんにちは。今年度より小児科部長に就任いたしました原卓也と申します。

私は佐賀県の出身でもともと大分には縁もゆかりもありませんでした。何かのご縁で当院への勤務は今回で3回目となりました。再びこの地で勤務できることを大変うれしく思っています。

当院の小児科は、大分県小児医療の2次、3次医療対応の中心として県全域から患者さんの受け入れを行い、肺炎などの日常遭遇する疾患から、外傷や熱傷など不慮の事故、集中治療や専門的な治療を要する重症患者まで、幅広く診療を行っています。

特に最近ではCOVID-19に伴う社会・医療状況の変化が大きく、診療においても様々な制限が加わり皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、より良い医療をご提供できるよう心掛けてまいりたいと思えます。

未だCOVID-19という厄災は収まらず、皆様ご不安やストレスの中で過ごされていることと存じます。県民の皆様にも少しでも貢献できるよう、精一杯努力する所存です。どうぞよろしくお願いたします。



産婦人科 1・2年に1度は検診を



がんセンター
婦人科部長
しまもと くみ
島本 久美

4月から産婦人科に赴任しました島本久美です。婦人科がんが専門で婦人科を担当しています。

最近では医療の専門化が進み当院にも多くの診療科があります。どこの診療科を受診すればよいか分からない、という患者さんもよくいらっしゃいます。お腹の調子に異常を感じたら消化器内科？尿意が近くなったら泌尿器科？

婦人科では女性特有の子宮や卵巣に関係する疾患を診ますが、自覚症状として急にお腹が出てきた、とか便秘または頻尿などの症状で見つかることがあります。また月経周期に関連したイライラや落ち込み、吐き気などの

症状を伴う疾患もあり、一見して婦人科疾患と思わないかもしれません。逆に子宮や卵巣の異常を心配して、違う疾患が見つかることもあります。異常を指摘されることはとても怖いと思いますが、進歩した薬物療法や、場合によっては手術療法でそれまでの苦痛が解消することもよくあります。また生命に関わることが、予防や早期発見によって助かる可能性も高くなります。女性の不調でどこの診療科に行ったらよいか分からない、という時には一度婦人科を考えてみてください。そして1・2年に1度は検診を受けましょう。



腎臓内科 腎臓内科についてご紹介



腎臓内科部長
ふくなが なおや
福長 直也

内科的腎疾患は大きく急性腎障害、および慢性腎臓病に大別されますが当科はその両方の治療を行っております。

急性腎障害は「急に腎臓の機能が悪くなった状態」をさします。その原因としては脱水症や薬物など数多くの原因があり、早急に原因を突き止め、原因に見合った治療を開始する必要があります。

一方、慢性腎臓病は主に「検尿異常、もしくは腎機能低下が3カ月以上持続するもの」をさし、国民の8人に1人が罹患していると推定されています。

その原因として糖尿病性腎臓病および高血圧症などの生活習慣病に由来することが多いです。

食事療法や運動療法に加え薬物療法を行い、少しでも腎機能が悪化することを防いでいきます。

慢性腎臓病が進行し、末期腎不全に至ると透析療法(血液透析或いは腹膜透析)が必要となることとなります。当科ではこの2つの透析療法も行っております。

当科は大分県下のかかりつけ医の先生方および院内の専門科と連携し内科的腎疾患の管理に当たっております。

常勤医師3名、外来・透析室・病棟看護師、臨床工学技士、栄養士、医療秘書の皆で力を合わせチーム医療を行っております。

大分県の腎疾患診療に尽力する所存でございますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 信頼され、支持される病院に



事務局長
しおつき ゆうた
塩月 裕士

本年4月に事務局長を拝命しました塩月裕士と申します。

当院での勤務は、平成19年を皮切りに、3回目、通算6年目となります。

私が県職員に採用された当時の当院は高砂町にあり、古くて狭い病院だったと記憶しています。その後、平成4年に現在の豊饒に移転し、総合周産期母子医療センター、救命救急センター及び精神医療センター等を新設し、皆様の応援をいただきながら、着実に医療機能を強化してきたところですが。

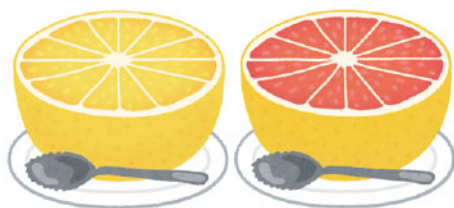
随分大きな病院になったものだと感じ深く思うとともに、県民医療の基幹病院として、県民の皆様の安心・安全を医療面で支

えるという責任がより一層大きくなったことを痛感しています。

事務局は、総務経営課、会計管理課及び医事・相談課で構成されており、病院を運営・管理面から下支えする役割を担っています。窓口等で業務を行っているのは主に委託業者の職員であり、裏方である私ども事務局職員が、患者さんやご家族の皆さんと直接お目にかかる機会は少ないことと思えますが、県民の皆様から信頼され、支持される病院作りに、事務局職員一丸となって努力してまいります。



薬と食品の相互作用～グレープフルーツ等の柑橘類～



薬の中には、「飲み合わせが悪い」と言われるものがあります。中でも、「グレープフルーツ」について聞いたことがある方は多いのではないのでしょうか。今回は特にグレープフルーツを中心とした食品と薬の相互作用について紹介します。

グレープフルーツに含まれるフラノクマリン類という成分には、**一部の降圧剤、免疫抑制剤等が消化管内で分解されるのを抑制する働き**があります。この働きにより体に吸収される薬の量が増え、薬の効き過ぎや、副作用の発生等の可能性があります。また、この効果は**3～4日続くため、グレープフルーツを食べる時間をずらしても防ぐことが難しい**とされています。

フラノクマリン類は、グレープフルーツ以外の食品にも含まれます。注意が必要な代表的な食品に柑橘類のバンパイユ、ハッサク、スウィーティなどがあげられます。

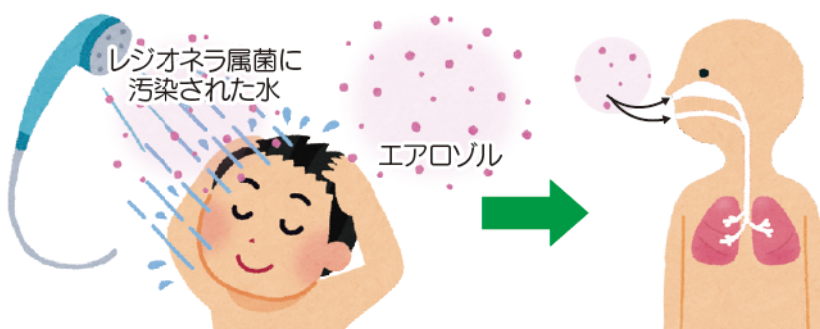
グレープフルーツなどを使った濃縮還元ジュースや、マーマレードなどの加工品にも注意が必要です。

一方で、温州みかんやデコポン、カボスなどの柑橘類にはほとんど含まれていないとされます。



レジオネラ症について

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による細菌感染症です。レジオネラ属菌は、自然界(河川、温泉や土壌など)に生息している菌ですが、この菌を含むエアロゾル(細かい霧やしぶき)を吸い込むことで感染します。主に、レジオネラ肺炎という重症の肺炎を引き起こすことから、早期診断と早期治療が重要となります。尿中のレジオネラ抗原を調べる検査が簡単で一般的に行われています。



公衆浴場からレジオネラ属菌が検出されたというニュースを目にすることがありますが、ほかにも加湿器や園芸・農作業、粉じんが舞う作業(建設現場など)で感染した例が報告されています。特に、高齢者や喫煙者、免疫の機能が低下している方は感染リスクが高いとされていますので、土埃が舞う作業を行う際は、マスクを着用しましょう。



また、これから空気が乾燥する季節となりますが、加湿器を使用する際は、こまめに水を交換するなど加湿器内を清潔にするよう心がけましょう。

(臨床検査技術部 主任臨床検査技師 一ノ瀬和也)

看護部だより

子ども看護外来の紹介

大分県立病院では2021年5月に子ども看護外来を開設しました。

体重が小さかったり、病気をもって生まれ、新生児病棟に入院した赤ちゃんを、入院中から退院後の外来、そして地域へと「つながる看護」で健やかな成長を支えます。入院中に育児練習をしても、家で過ごしてみると「これでいいのかな？」など気になることが生じるものです。

同じ困りごとでも解決策はそれぞれですので、そのお子さんに合った方法を親御さんと一緒に考えます。また、地域と連携し、より良いサポート体制を整えるお手伝いもしています。

■ママたちの困りごと TOP3

1位 退院してからのミルクの増やし方が難しい (例)「飲ませすぎ?」「ミルク不足なのかな?」

2位 おなかのケア (例)「ウンチが出にくくて困る」「おなかが張って吐きやすい」

3位 お肌のケア (例)「清潔に気を付けてるけど、ブツブツができてしまう」

■当院の取り組み

対象: 当院新生児病棟退院後の赤ちゃん・ご家族

電話相談

【初回外来受診まで】

お電話で相談をお受けしています(24時間)

子ども 看護外来

【初回外来時】

病棟看護師が面談し退院後の困りごとの解決策と一緒に考えます(予約制)

※ご希望の場合、まずはスタッフまでご相談ください



(新生児回復病棟 藤本亜希子)

放射線技術部だより

MRI 装置 (核磁気共鳴装置) の最新情報

当院では2022年4月にMRI装置が更新され、シーメンス社製の3テスラMRI装置「MAGNETOM Vida」が導入されました。

磁場強度が上がったことにより、従来装置と同じ時間で高分解能の画像が撮像可能となりました。特に、頭部領域においては、より小さな病変を描出することが可能となり、造影剤を使用せずに動脈血管を撮る「MRA」では、末梢の細い血管まで描出できるようになりました。

今回導入した装置では、AI技術が搭載されており、新しい画像再構成技術を用いることで短時間かつ高画質の画像を得ることができます。

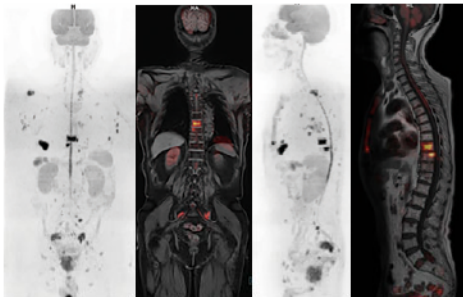
昨年度より新しい検査技術として、全身拡散強調画像「DWIBS(ドゥイブス)」の検査を行っています。「DWIBS」とは、MRIの高性能化によって可能となった「全身のがん検査」です。「DWIBS」は「PET-CT」や「骨シンチ」に比べ、投薬や被ばくが無く、検査の拘束時間(30~40分程度)が短く、比較的安価に行うことができます。今年度4月にはDWIBSの施設認定を更新することができました。

放射線技術部ではこれからも患者さんの負担を軽減し、診断や治療に大いに役立つ画像情報の提供に努めてまいります。

(放射線技術部 主任診療放射線技師 奥戸博貴)



3テスラMRI装置
「MAGNETOM Vida」



「DWIBS、Fusion画像」
正面・側面

施設認定証▶



栄養管理部だより

あなたの腎臓大丈夫？働かせ過ぎにご用心！

～生活習慣病予防シリーズ＜慢性腎臓病＞～

高齢化が進むとともに、患者数が年々増加しているのが慢性腎臓病（CKD）です。進行を遅らせるためには、腎臓に無理をさせないこと（働かせ過ぎないこと）が大切です。

「腎臓をいたわる食事」とは？

- ①まずは減塩！血圧管理が重要です。
- ②たんぱく質とカリウムは主治医の指示があれば制限します。



腎機能が低下すると水分、ナトリウム（塩分）などのミネラルの調整ができにくくなります。余分なナトリウムを排泄して腎臓に負担がかかり過ぎないように、減塩が重要になります。さらに、腎機能が低下すると、たんぱく質が代謝されるときに発生する老廃物や、カリウムがたまり、尿毒症（吐き気、頭痛など）や高カリウム血症（不整脈、心停止など）を引き起こす可能性があるため、制限が必要になってきます。ただし、不必要な制限は、かえって逆効果になりますので、主治医からの指示があれば制限します。



当院では、月曜日から金曜日までの毎日、個別栄養相談を行っています。ご自分の食事療法が適切か、気になる方は主治医を通して管理栄養士にご相談ください。

（栄養管理部 管理栄養士 安達悦子）

臨床研究部だより

臨床研究部を立ち上げました

当院のような地域の中核病院としての役割の一つに新規薬剤の治験や臨床研究を行うことがあります。臨床医学研究の中心は大学病院ですが、日本の全体像を見た研究ということになると、一般病院のデータは重要です。また研究は若手医師の教育にも必要です。このような治験や臨床研究は医師だけで行うことはできません。看護師・薬剤師・臨床検査技師など他の医療職の協力は必須ですが、さらに臨床研究コーディネーター（CRC）という立場の方が重要な役割を担ってくれています。



これまで当院では各診療科が独自に臨床研究等を行い、一部の治験等でCRCが手伝って来ていました。しかし日々の診療の中で質の高い研究を多く行うためには病院としてのサポートが必要です。そのため2022年4月より臨床研究部を立ち上げることになりました。

臨床研究部では、院内で行われている臨床研究、治験をすべて把握し、院外への情報発信も行います。またCRCを配置し、各科の研究の手助けをします。CRCは現在2名ですが、今後は必要に応じて増員していく予定です。

（臨床研究部長 副院長 加藤有史）

医療ネットワーク

『がん相談支援センター』

こんな時、ぜひご相談ください。

がん相談員研修を受けた看護師等が、個室でお話を伺います(秘密厳守)

がんの検査・治療について

- ・自分のがんや治療を詳しく知りたい
- ・がんゲノム医療について知りたい
- ・先進医療やほかの治療法について知りたい

治療と仕事の両立について

- ・治療を受けながら仕事を続けたい
- ・職場への病気の伝え方に迷っている
- ・新しい仕事をみつけない

経済的負担や社会資源について

- ・利用できる助成や制度を知りたい
- ・介護保険の手続きを知りたい
- ・ウイッグや補正下着の助成を知りたい

療養生活について

- ・食べられない、体がきついなどの、治療の副作用と上手につきあいたい
- ・病気や症状のために生活に困っている
- ・妊娠や子供をもつことについて相談したい

セカンドオピニオンについて

- ・どんな制度か知りたい
- ・セカンドオピニオンを受けたい

医療者とのコミュニケーションについて

- ・医師から受けた説明がよくわからない
- ・医療者に何を相談すればよいかわからない

家族との関わりについて

- ・家族へ病気をどう話してよいかわからない
- ・家族としての悩みも相談したい

気持ちのつらさについて

- ・気持ちが落ち込んでつらい
- ・話を聞いてほしい

緩和ケアについて

- ・緩和ケアについて知りたい
- ・緩和ケアの専門病院を知りたい



がん相談支援センターは、

正面出入口から入ってすぐ左
「⑦患者総合支援センター」内にあります。

- ◎ 予約不要、無料です。
 - ◎ 電話相談もお受けしています。
- ☎097-546-7062 (直通)



外来診療一覧表

注) 診療日が変更になる場合もありますので、予めご了承ください。
(令和4年9月1日現在)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
循環器内科		○	○	○	○	○
内分泌・代謝内科		○	○	○	○	○
消化器内科		○	○	○	○	○
腎臓内科		○	○	○	○	○
膠原病・ リウマチ内科		○	休診	○	○	○
呼吸器内科	新患 再来	○	○	○	○	○
呼吸器腫瘍 内科	新患 再来	○	○	休診 ○	○	○
血液内科		○	○	○	○	○
神経内科		○	○	○	○	○
外科	消化器 乳腺	○	○	○	○	○
脳神経外科		手術日 休診	○	○	○	手術日 休診
呼吸器外科		手術日 休診	○	手術日 休診	○	○
心臓血管外科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
整形外科		○	○	○	○	○
形成外科		手術日 休診	手術日 予約のみ	○	○	○
眼科		○	手術日 予約のみ	○	手術日 予約のみ	○

診療科	曜日	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科		○	○	手術日 休診	○	手術日 休診
婦人科	新患 再来	○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
産科		○	○	○	○	○
小児科		○	○	○	○	○
新生児科		○	○	○	○	○
小児外科		○	○	○	手術日 休診	○
内視鏡科	消化管 気管支	○	○	○	○	○
皮膚科		○	手術日 検査日 休診	○	手術日 検査日 休診	○
泌尿器科	新患 再来	○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
精神科		○	○	○	○	○
緩和ケア外来		○ 15時 から	休診	休診	休診	休診
放射線科		○	○	○	○	○
歯科口腔外科		休診	○ 予約のみ	休診	○ 予約のみ	○ 予約のみ
外来化学療法室		○	○	○	○	○
診療科の判断が 困難な場合の 担当診療科		消化器 内科	1・3・5週 内分泌・ 代謝内科	呼吸器 内科	神経 内科	血液 内科

アクセス

JR: 大分駅からタクシーで約15分または
南大分駅からタクシーで約8分
バス: 大分駅前バス停からバス・徒歩を含めて約25分
(大分市内中心部から約25分間隔で運行)
駐車場: 有料駐車場(約400台)完備(1時間まで無料)

受付時間 午前8時～午前11時

救急患者は24時間受入

紹介による受診に関する事は…

地域医療連携室

平日(土・日・祝日除く)
午前8時15分～午後5時(受付は11時まで)
TEL 097-546-7129
FAX 097-546-7368

診療開始時間 午前8時30分

休診日 土・日・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)

療養中の心配事や不安などは…

患者総合支援センター

平日(土・日・祝日除く)
午前8時30分～午後5時
TEL 097-546-7125

Oita Prefectural Hospital
大分県立病院

〒870-8511 大分市豊饒2丁目8番1号
TEL 097-546-7111～2(代表) FAX 097-546-0725 総務経営課広報係
E-mail a80200@pref.oita.lg.jp ホームページ <https://www.oitapref-hosp.jp/>

※当ニュースへのご意見・ご感想は1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。